

4. 開拓四方山はなし

平 林 繁 蔵 ヨシノ

繁蔵 明治35年9月24日生、岐阜県出身。

ヨシノ 明治38年3月25日生。

古い入殖者

私は、父捨松、兄長左衛門等と共に、内地（岐阜県）から直接入地しました。上興部（奥興部）を選んだのは、叔父の利徳が先に北海道に来ていて、奥興部の土地を探し、こういう良い土地があるから行こうと誘われて、一緒に入地したのです。

入地の翌年に、二六線から奥の区画測量がされ、沢山の入地が入り込んでいたのを記憶しています。

※二六線から奥の測量は、明治40年で、平林の入地は、明治39年春である。

私たちの入殖地は、合田本家のあった処（現在の北川屋敷）で、地主は石丸滝蔵でした。そこを或る程度開いてから、新しく殖民地の区画割のできた工藤の沢（現在の鉄道線路を越えた所）に移り、更にその沢の出口に移ったのです。

入殖当時は、上興部には小林（四郎左衛門）さんと、上興橋近くに館岡（与三松）さんが居るだけで、入地した翌年あたりから急激に入殖者が増加してきました。その後、越後、越中の団体が入り、これら団体や、個人入殖者で古い人たちには、町田啓治、太田仁太郎、春日文平、若林喜八、黒田儀三郎、菅野少二郎、三木豊吉が居て、また店をやった谷（庄三郎）さんや、木島藤之助（子、正雄、実）さんも、合田さんたちより古い人です。

少しおくれて、松島辰次郎、大竹さん、合田さん一族が入地して来ました。

開拓地は平地であっても、巨木密林で、初めのうちは、みんな焼き捨てて、明治の末頃になって木材師が入り、安い捨値で売りましたが、開墾の邪魔物が幾らかでも金になったので、開拓者は大喜びでした。

水田に泣く

奥興部に土功組合が、大正12年に作られたが、試作をしたのは、大正7、8年ころからで、松島辰次郎さんが僅か二、三枚の水田を作っていました。これが稔って、米が穫れるということで、水田熱が高まり、畑作も無肥料では、多収穫は見込めなくなって来た時代だったので、土功組合を作り、奥興部一帯を水田地にしようと計画したのです。

初め僅か作っていた水田から、良い米が二年ほど続けて収穫し、多い人は逆に5、6俵も穫れました。価格は玄米で、一俵3円50銭でした。

奥興部でも米が穫れるということで、我も我もと水田にし、旧鉄板神社の高台からと、平地は興部川本流の奥の方から、上興橋附近まで水田になってしまいました。

造田の補助金も出たので、水田にするのにやり易かったのです。

しかし、水田が出来上ってから、ガスがかかって、2カ月も太陽が見えなかったり、低温や長雨があったりして、凶作ばかり続きました。

平地の方の人たちは、軒下まで水田にして畑がないため、馬鈴薯も麦も作れず、食糧がなくて、ウバユリや澱粉粕を常食にした家もあり、私たちは畑があったので、粟などを作って食べましたが、多くはフキや馬鈴薯を主食にし、私たちも、南瓜のなかの「わた」まで食べたことがあります。

とに角、何年も凶作が続くのですから、奥興部の人たちは食物一つ満足になく、買う

金も、冬になって救済事業でとるくらいで、それも男一日90銭という安い賃金でしたから、働いても、たかが知れたものでした。

その外砂利敷の救済工事があって、石油箱を手籠に積んで、砂利を引張ったのです。私(ヨシノ)も子供二人に後押しさせて、仕事をしましたが、丁度3月末ころだったので、皆雪目に罹りやめて終わりました。

僅かの賃金ほしさに作業場には、女子供もまじって、沢山の人が働きに出たものです。

学校の弁当もソバ団子を持つ子が多く、唐きび1本ままや、薯を煮たものなど、とても話にならないものでした。エン麦の皮をむいたのを盛んに食べたのもこの頃です。

水田を締めて、また畑にしましたが、肥えた表土は流されて、赤土に作物を植えるのですから、満足な収穫もなく、高台の人たちは造林をして離農しました。水田作りで、奥興部の人たちがどんなにか苦しみ、部落の人たちは、有り金や財産を手放し、すっかり貧乏になり、次々に離農してしまっただけです。

3頭の人食い熊

大正の末ころは、一ノ橋との国境近くまで、あちこち開墾されて、鉄道線路から上の方も、畑になっている所があり、頂上から少し上興部寄りに、塩見鉄道官舎(保線丁場)があったりして、奥興部の戸数は50戸以上でした。

森下さんの婆さん、といっても40代でしたが、この人が熊に食われた年は、凶作で春おそくまで雪があり、婆さんは雪の解けた所だけでも耕やそううとして、畑に出て居て、夕方熊に襲われたのです。

畑は、塩見鉄道官舎から少し上の、いま、吉水さんの所有林になっている所です。2才仔を連れた3頭の熊は、数日前から出没していて、婆さんは近くに住む森さんに、「おっかない、おっかない」と話をしていたそうです。

襲われたその日も、夕方頃まで、熊除けのガンガンを子供たちに叩かせていたが、夕方子供たちを家に帰して、暗くなっても畑から帰って来ないので、家の者は狐にでも化かされたのでないかと、私の家に、探すのを頼みに来ました。

その晩は、一寸先も分からぬ暗闇で、森下さんと、私と兄の三人で堤燈を点けて畑まで行き、沢の方に降りると、真白に雪が残っており、堤燈の光で無数の熊の足跡が見え、何か引きずって行った跡があります。その中に婆さんの頭にさしていた「くし」が見付かりました。

3人とも熊にやられたと思うと、急に恐しくなり、背中まで寒くなる思いでした。こんな暗闇の中で、何所に熊がかくれているか分らず、何時飛びかかれるかと思うと、婆さんを探すどころでなく、無我夢中で森下さんの家に引揚げ、近所の人に集まってもらいました。

夜探すのは危険なので、次の朝早く、部落の人や、鉄砲撃ち、消防組に出てもらい、婆さんの変り果てた死体を見付けました。

婆さんの死体は、畑から少し入った藪の中の大きな木に、ぶどう蔓でぐるぐる巻いてあり、婆さんが逃げないようにしたのでしょうか。体は素裸にされて、膝から下に僅かにモンペの布切れが残り、手で刺した足袋を履いて、頭のこめかみの所に、指の入るような穴があいていました。両股の後側の肉が食いとられていて、3頭も熊が居てあまり食われなかったものだと、皆で話し合ったものです。

この熊は、3日はど後に、国境から一ノ構側に居るのを、鉄道の機関手の人が見つけ、知らせてくれたので、興部で写真屋をしていた人たちが3頭とも射止めました。

後になって聞いた話ですが、塩見官舎の組頭の人が、婆さんの悲鳴を聞いたそうですが、まさか熊にやられたとは思わなかったそうです。

こんなことが原因になったのか、国境地帯から急に農家が減りはじめ、今は、すっかり山林になって終わりました。

※被害者は森下きやう。安太郎妻、死亡した日は、大正15年5月20日である。

国境の化け狐

天北国境は、今は木も少くなり、道路も広く改良されて便利になりましたが、昭和の初めころは密林地帯で、狐が沢山いて、よく化かされたという話があります。奥興部で店を営んでいた谷のおやじさん（庄三郎）が、狐に化かされて、3日3晩山中をさまよい、部落総出で大騒ぎして見つけ出したことがあります。

国境で森下のお婆さんが熊に喰われて（大正15年）から暫くして、（年代不明、昭和初期）ある秋の夜、一ノ橋で炭焼きをしていた丸山という人が、突然家に訪ねてきて、「実はいま国境で、面作松さんを殺して背負ってきた。大変なことをしてしまったのでこれから警察に自首するから、ご苦労でも一緒に連れて行ってくれ」と言って、背負っているものを土間に投げ出したのです。丸山さんの顔は真蒼で目だけが、らんらんと輝き、それは恐い顔をして、人を殺してきた、というので、家中の者は驚いて立ち上がり、大風呂敷に包んだ面作松さんの死体？をよく見ると、なんとこれは大きな狐なので、家中の者は二度ビックリ。

「これは狐でないか」と言うと、丸山さんは「お前等も狐の仲間だ。まだ、だますつもりか、殺してやる」と言って身構える始末でした。

父（捨松）が、言うことを聞かない丸山さんをなだめすかしている中に漸く落ち着き、よく聞いてみると次のようでした。

その頃、面作松さんは、越後団体（奥興部本流付き）で炭焼きをしていて、丸山さんとは親しくしており、丸山さんは、久し振りに面さんを訪ねて見ようと、夕方酒と缶詰を一反風呂敷で背負って、国境までやってきました。頂上を越えて下りにかかると、下の方から、これから尋ねようとする面さんが登って来るので、これは良い所で逢った、一杯やろうと、道の傍らで酒盛りを始めた。

四方山話をしながら呑んでいるうちに、カチカチと音がするのでよく見ると、面さんが缶詰を口にくわえて、中のものを食べようとしているので、これは変だ、口で缶詰をあけようとするのは、てっきり狐に違いないと思い、面さんを抱きかかえて、背中に手をやると一面に毛が生えている。やっぱり狐だと思い、道端にあった石で、いきなり頭をなぐりつけ、倒れたのを風呂敷で首を締めたが、死んでいるのは矢張り面さんに間違いない。

丸山さんは、面さんが、犬の毛皮の「はんてん」を着ていたのを、狐と間違えたのかと思うと、酔も一度に醒めて、これは大変なことを仕出かしたと蒼くなり、警察に自首しようと、面さんの死体を風呂敷に包み、上興部方面に下ってくる中に、燈の見た私の家に飛び込んだらしいのです。

半信半疑でいる丸山さんを、父はなだめすかして、面さんの家まで送り届けましたが、人殺しだと言ったり、それが大きな古狐だったり、丸山さんの恐ろしい目付きなど、あんな恐ろしかったり、驚いたことはありません。

あの狐は大きなもので、尻尾の方が白くなっていたから、相当な古狐だったのでしょう。その頃狐の毛皮が値の良い時でしたが、人をだますような狐の皮は、薄気味悪いと言って、誰も買わなかったそうです。

それからは、国境で狐に化かされた話はなくなったので、きっとこの狐が悪さをしていたのでよう。